SBI大学院大学

2027年度 春学期

Pre-MBAコース

― 募集要項 ―

SBI大学院大学 概要

大学名称	: SBI大学院大学
学長	: 蟹瀬 誠一
研究科・専攻	: 経営管理研究科 アントレプレナー専攻
大学の形態	: 専門職大学院（通信教育）
修了後の学位	: 経営管理修士（専門職）
入学定員	: 本科生 年間120名（春期・秋期の各60名募集）
最低修業年限	: 2年
修了要件	: 34単位以上の単位取得
設置者	: 学校法人SBI大学

住所　: 〒106-6021 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー21階
電話　: 03-6229-1175
FAX　: 03-6685-6100
E-mail　: sbiu-contact@sbi-u.ac.jp

Pre-MBAコースとは

入学前にビジネスパーソン必須のスキルからはじめる

働きながら学べるか不安、修了までの学費を考えるとなかなか決断できないなど、MBAの取得は考えていても、いきなりMBA本科コースへ入学するのはちょっと…という方のために、入学前にビジネスパーソンとして獲得しておくべき必須スキルから学べるコースです。

eラーニングによるインタラクティブな授業展開に加え、ラーニングスタッフ(LS)が受講生のスムーズな学習をサポートいたします。

Pre-MBAコースの4つの特徴

1. MBA必修科目を中心に、ビジネスパーソンに必須のスキルを身に付ける。
2. 無理のない学習時間で、学習スタイルを確立できる。
3. MBA単科コースよりも割安な価格で受講ができる。
4. 取得済み単位の移行、入学金免除・授業料減免など、MBA本科コースへの編入もスムーズ。

1. MBA本科コースの科目から、ビジネスパーソンに必須なスキルを身につける

本学ではMBAを取得するにあたり、経営者やリーダーシップを発揮する組織人として身に付けておくべき領域を、必修科目としています。
Pre-MBAコースでは、ビジネスパーソンに必須となるスキルを身に付けながら、MBA本科コースの必修科目と次世代テクノロジー科目を中心に単位が取得できるため、将来のMBA取得を見据えて、効率的に学ぶことができます。

[以下より、4単位をご選択ください]

カテゴリ	科目区分	科目名	単位数	MBAプログラムにおける必修・選択の別	教員名
MBA基礎	戦略・マーケティング	マーケティング ※1	通期2単位	必修	佐々木 一人 又は徐 恩之
	金融・財務	ファイナンス ※2	通期2単位	必修	宮内 惇至 又は山岸 洋一
		財務会計 ※3	前期1単位	必修	三光寺 由実子 又は柴崎 健
		管理会計 ※4	後期1単位	必修	小林 英幸 又は柴崎 健
	経営数理・問題解決	オペレーションズ・マネジメント ※5	通期2単位	必修	小林 英幸 又は野間口 隆郎
		問題解決技法	通期2単位	選択	太齋 利幸
次世代テクノロジー		統計学	前期1単位	選択	沖吉 真実
		生成AIビジネス利活用概論	後期1単位	必修	重田 孝夫 佐々木 一人 沖吉 真実
		データサイエンス	後期1単位	選択	沖吉 真実
		ブロックチェーン技術の社会実装（基礎技術編）	前期1単位	選択	藤本 守
		ブロックチェーン技術の社会実装（応用編）	後期1単位	選択	藤本 守
	金融・財務	金融インフラと情報技術～次世代・デジタル金融の展望	前期1単位	選択	中山 靖司

※1・※2・※3・※4・※5の科目は、授業概要をご確認の上、受講を希望される担当教員をご選択下さい。それぞれ同一科目のため、いずれか一方しか受講できません。

※1（マーケティング）・※3（財務会計）・※4（管理会計）の科目は、履修人数に大幅な偏りが発生した場合、選択されたクラス（教員）と異なるクラスに振り分けられる可能性がありますのでご了承ください。

2. 無理のない学習時間で、学習スタイルを確立できる

通常2年でMBAを取得する場合は、年間17単位、春学期と秋学期でそれぞれ8〜9単位の取得が必要となります（1週間あたり12時間の学習が目安となります）。Pre-MBAコースでは、1学期（半年間）で4単位分の履修となるため、ゆとりをもって受講することができます。

※科目を変えて最大4回、Pre-MBAコースの受講が可能です。

3. MBA単科コースよりも割安な価格で受講ができる

登録料 2万円 ＋ 授業料 28万円（4単位セット）

※登録料は、他コースを含め、新規受講時のみ適用されます
※MBA単科コースの授業料1単位8万円 / Pre-MBAコースの授業料1単位7万円

4. 取得済み単位の移行、入学金免除・授業料減免など、本科コースへの編入もスムーズ

Pre-MBAコースからMBA本科コースへ編入すると、取得した単位をそのまま引き継ぐことができ、MBA本科コースへの編入もスムーズに行えます。
Pre-MBAコースは、科目を変えて複数回受講することも可能です。
その他、入学金（10万円）が免除され※、取得済みの単位数に応じて下記のとおりMBA本科コースの授業料の減免を受けることが可能です。

※Pre-MBAコース受講の直後の期に、MBA本科コースへ入学された場合に限ります。

Pre-MBAコース 受講回数	Pre-MBAコース 取得単位数	MBA本科コース 2年次授業料 減免額
1回	4単位	160,000円（2単位相当分）
2回	8単位	480,000円（6単位相当分）
3回	12単位	800,000円（10単位相当分）
4回	16単位	1,120,000円（14単位相当分）

Pre-MBAコース募集定員／入学資格

■募集定員

若干名（定員は科目ごとに異なります。）

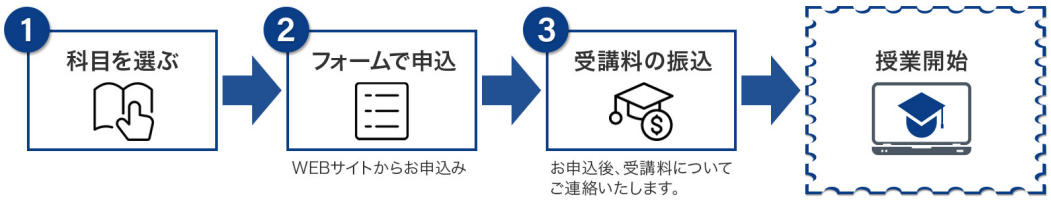
■入学資格

要件Aおよび要件Bをともに満たしている者

要件A (1)・(2) いずれかに該当する者	(1) 4年制大学卒業 1. 大学を卒業した者 (2) (1)と同等の学力があると認められる 2. 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者 3. 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者 4. 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の16年の課程を修了した者 5. 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学日本校）を修了した者 6. 外国の大学等において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者 7. 文部科学大臣が指定する専修学校の専門課程または専攻科を修了した者（文部科学大臣指定専修学校専門課程一覧 参照） 8. 旧制学校等を修了した者 9. 防衛大学校、海上保安大学校、気象大学校など、各省大学校を修了した者 10. 本学において個別の入学資格審査により認めた22歳以上の者 i. 4年制大学を卒業したことの証明書が提出できない方で、日本の大学院を修了している場合 ii. その他（学歴が大学卒業未満の者等）
要件B (1)・(2) いずれかに該当する者	(1) 社会人として就業経験が3年以上ある (2) (1)と同等の経験があると入学審査にて認められる

※要件A 1〜9／要件B（1）に該当しない方は「入学資格審査票」への記入が必要となります。
※講義は日本語で行われるため、日本語を母国語としない場合には日本語能力試験N1程度が目安となります。

■受講までの流れ



（1）本学Webサイト上の「Pre-MBAコースのお申込み」ページからお申込みください。申込みフォームで、受講を希望する科目を選択いただきます。（対象科目一覧をご参照ください。）
（2）お申込み完了後、受講までの手続き（学費のお支払いや卒業証明書等の提出書類）に関するご案内メールをお送りしますので、ご確認のうえ、期限までにお手続きください。
（3）受講開始の約3週間前に、受講に必要な情報を記載した資料等をご案内します。受講開始までに、学期スケジュールやeラーニングシステムの操作方法等をご確認ください。

申込手続き

■日程

申込締切	2027年3月10日(水)
開講日	2027年4月14日(水)

■学費

登録料2万円 ＋ 授業料 28万円（4単位セット）
※登録料は、他コースを含め、新規受講時のみ適用されます。

■入学資格の確認・入学資格審査について

入学資格要件(P.5参照)のうち、要件A 1〜9に該当しない方および要件B(1)に該当しない方は、申込時に入学資格審査が必要となります。入学資格審査票は、該当する方のみ申込画面から遷移しますので、ご提出をお願いいたします。
審査には、1週間程度お時間を頂戴しますのでご了承ください。

■申込方法

本学 Webサイト「Pre-MBAコースのお申込み」よりお申込みください。下記のQRコードからもアクセスできます。
入学試験はございませんが、入学資格要件（P.5参照）を満たしていない方は、「入学資格審査票」をご提出ください。

»『SBI大学院大学Webサイト』→『 Pre-MBAコース』→『Pre-MBAコースのお申込み』
https://www.sbi-u.ac.jp/form/apply_p

■学費の振込

お申込後に学費のご案内メールをお送りいたします。ご案内メール受信後、以下の指定口座にお振込みください。

【個人でのお申込みの場合】
お申込み月の翌月15日払い。申込締切月にお申込みいただいた場合は当月15日払いとなります。

【法人でのお申込みの場合】
各月 1日〜15日 までのお申込みは、申込月の翌月末のお支払いとなります。
各月16日〜末日までのお申込みは、申込月の翌々月末 にお支払いとなります。
ただし、申込締切日の前月16日以降にお申込みいただいた場合は、上記にかかわらず申込締切日の属する月の月末にお支払いとなります。

・振込手数料はご負担願います。
・海外から送金される際は事前に大学事務局までお問い合わせください。
・振込み人名義は必ず出願者名にしてください。
・大学事務局管理のため、振込み人名義の前に、「103」と入力してください。
・振込票の控えはお手元に保管してください。
・領収書の発行を希望される場合には、事務局（admission@mba.sbi-u.ac.jp)までご連絡ください。

銀行名　：ドコモSMTBネット銀行（0038）
支店名　：法人第一支店（106）
科目　　：普通預金
口座番号：1002143
口座名義：学校法人SBI大学
フリガナ：ガク）エスビーアイダイガク

申込手続き

【領収書の発行】
発行をご希望の場合は発行方法（PDFまたは郵送）及び以下該当の情報をご連絡ください。

・PDFの場合：宛名
・郵送の場合：宛名、郵送先住所

※インターネットバンキングでお振込みの場合は、
「振込明細」等の画面印刷またはキャプチャ（スクリーンショット）を保存してください。
※ご入金後、やむを得ずキャンセルを希望される場合は、受講開始日前日までの受付に限り、登録料および授業料を返金いたします。なお、返金に伴う振込手数料は受講者の負担となります。受講開始日以降は、いかなる理由においても登録料・授業料の返金はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

■必要書類・受講前手続き

お申込後にお手続きの詳細に関するご案内メールをお送りいたします。
(1)～(5)については専用フォーム（Microsoft Forms）、(6)についてはメールでのご提出が必要となります。

（1）個人情報の取扱いに関する同意書
（2）誓約書
（3）秘密保持誓約書
（4）SBI大学院グループウェアのご利用に伴う個人情報の取り扱いについて
（5）eラーニングでの受講に必要な基本的なパソコンスキルに関する誓約
（6）大学の卒業証明書等、入学資格要件の確認に必要な書類

MBA基礎科目

マーケティング（佐々木）

科目区分	レベル	単位数
戦略・マーケティング	コア	2



佐々木 一人
教授

＜授業概要＞

今日、マーケティングは、顧客・市場・社会への価値創造活動として進化し続けています。ピーター・ドラッカーは著書『マネジメント』で、「企業の目的は顧客の創造である。したがって、企業は二つの、そして二つだけの機能を有し、それがマーケティングとイノベーションである。」と述べています。企業が人で成り立ち、人がその機能を達成して行く企業活動において、マーケティングはすべてのビジネスパーソンにとっての基本要件であると言えます。本講義は、進化し続けるマーケティングの本質的意義について考えながら、実務で使える戦略志向のマーケティングに関して体系的に学びます。

＜学修目標＞

本講義の学修目標としては、授業でのレクチャー、小テスト、ディスカッション、レポート作成を通じて、以下の実現を目指します。
1)マーケティングの理論や基本的な枠組み、その変化について正しく理解する。
2)顧客の価値創造を図るべくマーケティングのあり方や取り組み方法について、基礎を確立する。
3)戦略志向で使えるマーケティングについて考察するとともに、一連のマーケティング活動を自らができるようになる。

※「マーケティング（佐々木）」と「マーケティング（徐）」は同一科目のため、いずれか一方しか受講できません。

マーケティング（徐）

科目区分	レベル	単位数
戦略・マーケティング	コア	2



徐 恩之
客員准教授

＜授業概要＞

社会や市場環境の変化に伴い、マーケティングは、顧客・市場・社会に対して価値を創造し、提供するための活動として、継続的に発展してきました。マーケティングとは、顧客や市場のニーズを的確に把握し、価値ある製品・サービスや解決策を通じて、企業と顧客・社会との望ましい関係を構築していくための考え方および実践活動です。企業活動は、多様な役割を担う人々によって支えられているため、ビジネスパーソンが市場および顧客の価値を適切に理解し、課題に応じた解決策を構想・実行していくうえで、マーケティングの視点は不可欠です。本講義では、マーケティングを初めて体系的に学ぶ受講者にも配慮し、基本概念、主要理論および代表的な分析枠組みを段階的に学びます。そのうえで、顧客志向・戦略志向のマーケティングを、実務においてどのように活用できるかを重視します。具体的には、産業財マーケティング、国際マーケティング、消費者行動、マーケティング組織・管理など、マーケティングに関する主要なテーマを幅広く取り上げます。また、本講義では、理論の理解にとどまらず、受講者自身が所属する業界、企業、組織、担当業務、あるいは関心を持つ市場を対象として、実践的なマーケティング分析を行う機会を設けます。レポート課題や授業内でのディスカッションを通じて、市場環境分析、顧客・競合分析、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、顧客価値の検討などの基本的なマーケティング・ツールを用いながら、現実の課題を整理し、分析する訓練を行います。さらに、企業顧客と最終消費者といった顧客類型の違いにも着目し、それぞれに求められるマーケティング活動について、実務上の課題や具体的な事例を通じて考察します。受講者は、基礎理論と現実の市場・企業活動との間に存在するギャップを自ら発見し、その背景や要因を体系的に分析したうえで、実行可能な改善策・解決策を構想します。こうした学修を通じて、マーケティングの基礎知識を身につけると同時に、自らが関わる事業や顧客の課題を顧客志向かつ戦略的に捉え、論理的に提案する力を養うことを目指します。

<学修目標>

本講義では、講義、小テスト、レポート課題、ケース討議および授業内ディスカッションを通じて、受講者が以下の知識・能力を修得することを目標とします。
1)マーケティングの主要理論、基本概念および分析枠組みについて、初学者にも説明できるレベルで理解し、適切に説明できる。
2)市場環境、顧客、競合、自社・自組織に関する情報を収集・整理し、マーケティング上の課題を多面的かつ論理的に分析できる。
3)STP、顧客価値分析、顧客分析、競合分析、マーケティング・ミックスなどの基本的なマーケティング・ツールを用いて、自らが所属する業界・企業・組織、または関心のある市場を分析できる。
4)企業顧客と最終消費者の特徴および購買行動の違いを理解し、それぞれの顧客に適したマーケティング課題と対応策を考察できる。
5)レポート課題や討議を通じて、理論と実務を結び付けながら、現実のマーケティング課題に対する実行可能な解決策を構想し、自らの考えを論理的かつ説得的に表現できる。
6)他者との議論やフィードバックを通じて、多様な業界・顧客・市場に関する視点を取り入れ、自身の分析および提案を改善できる。

※「マーケティング（徐）」と「マーケティング（佐々木）」は同一科目のため、いずれか一方しか受講できません。

MBA基礎科目

ファイナンス（宮内）

科目区分	レベル	単位数
金融・財務	コア	2



宮内 惇至
教授

＜授業概要＞

ファイナンスの初学者を対象として、事業投資の意志決定、企業価値の評価と最大化、最適な負債と株主資本との組み合わせ、などについての基本的な考え方と分析手法を学びます。理論的な厳密さよりも実務上の有用性の観点から、基本的な概念の本質的な意味を理解したうえで使いこなすことに重点を置きます。なお、実践的なファイナンス手法の感覚を養うためにエクセルを用いて数値例を計算することがあります。

<学修目標>

本講義の学修目標としては、授業でのレクチャー、小テスト、計算問題演習、レポート作成などを通じて以下の実現を目指します。
1) リスク、割引現在価値、CAPM、資本コストなどのファイナンスの基礎的な概念を理解し、自ら議論を
　組み立てることができる。
2) ビジネスの現場において、ファイナンスの考え方や分析ツールを使いこなし、意志決定に役立てることができる。

※「ファイナンス（宮内）」と「ファイナンス（山岸）」は同一科目のため、いずれか一方しか受講できません。

ファイナンス（山岸）

科目区分	レベル	単位数
金融・財務	コア	2



山岸 洋一
教授

＜授業概要＞

ファイナンスの初学者を対象として、企業価値評価とそれを支える諸々の理論を中心に学ぶことにより、ファイナンスの諸理論の体系的な理解を目指します。また、ベーシックなファイナンス理論を学んだうえで、スタートアップのファイナンスの特徴を学びます。授業に際しては、ファイナンスの実践的な知識の修得に重きをおき、実務を行う段階で知っていないと困る「幹」となる理論を先に説明し、「幹」を支える理論はその後に解説します。常に「今学んでいるのは全体のどこに位置しているか」を示しながら解説します。また、確実な理解を促すため、数値例を多く示し、また、当該数値例をエクセルで計算することがあります。会計、法律、東証規則（コーポレートガバナンス・コード等）など周辺の知識が必要となる場合に、これらを適宜補足しながら学んでいきます。

<学修目標>

ファイナンスの諸理論を体系的に理解することにより、企業価値最大化のための財務的な意思決定を合理的に行うことができる。また、ベーシックなファイナンス理論の理解に加え、スタートアップのファイナンスの特徴を理解することにより、スタートアップの企業価値最大化のための財務的な意思決定を合理的に行うことができる。

※「ファイナンス（山岸）」と「ファイナンス（宮内）」は同一科目のため、いずれか一方しか受講できません。

※2026年秋学期シラバスに基づいて作成しているため、記載内容に変更が生じる可能性があります。

MBA基礎科目

財務会計（三光寺）

科目区分	レベル	単位数
金融・財務	コア	1



三光寺 由実子
准教授

＜授業概要＞

財務会計とは、企業の経済活動の実態を、貨幣金額で描写し、外部に公表した財務諸表が、どのような構造で作られているのか、また、その構造の背景にあるルールがいかなるものかを学ぶ、会計の主たる一領域です。財務会計を学ぶことにより、企業が公表する情報源泉から、その収益性、リスクの程度、成長性などを他社と比較しつつ分析する基盤を築くことが出来ます。
本講義では、実際に、企業の財務諸表をどのように読み解き、意思決定へ結びつけるのかといった発展的分析や、国内およびグルーバル経営の中での会計へとつながるための、基礎を習得します。

<学修目標>

自社ならびに同業他社の財務諸表から、財政状態や、経営成績を把握し、意思決定を行うための基礎を習得する。期末レポート課題で取り上げる課題のケースを、財務会計の知識をもって分析をすることができる。

※「財務会計（三光寺）」と「財務会計（柴崎）」については、事務局で所属クラスを振り分けます。ご自身で選択することはできません。

財務会計（柴崎）

科目区分	レベル	単位数
金融・財務	コア	1



柴崎 健
教授

＜授業概要＞

財務会計は企業経営、ファイナンスや投資分析に必須の技術です。本授業では、会計の基礎的な知識を学びながら、企業が企業活動をどのように開示、公表しているかを見ることで、経営の意図を考えるための基礎を習得します。また、不正会計の事例を学ぶことで、正しい企業価値評価とは何かを考えます。

<学修目標>

自社の財務諸表から経営状況を把握したり、他社比較を行うことで、経営の課題を的確に把握・発見するための基礎を学び、期末レポートで取り上げる課題のケースを標準的なアプローチで分析ができること。

※「財務会計（柴崎）」と「財務会計（三光寺）」については、事務局で所属クラスを振り分けます。ご自身で選択することはできません。

※2026秋学期シラバスに基づいて作成しているため、記載内容に変更が生じる可能性があります。

MBA基礎科目

管理会計（小林）

科目区分	レベル	単位数
金融・財務	コア	1



小林 英幸
教授

＜授業概要＞

この授業では、管理会計が企業の内部に提供する情報と、企業で働く人々に与える影響に着眼して、管理会計システムの設計や、その運用のあるべき姿を考えていきます。
管理会計の元々の目的は、会計データを初めとして、企業の経営に役立つデータを、企業の内部に提供することです。つまり「情報システム」としての役割です。企業の現場に存在するのは会計データだけでは勿論ありません。仕事の質を高めるための仕組みや、働く人たちの心理・感情というものも、企業の経営に影響を及ぼすものです。
この授業では、会計データを中心とした情報システムとしての役割と、それらが企業で働く人々に与える影響、すなわち「影響システム」としての役割に着眼して進めていきます。影響システムとしては特に、人は測定されることによって行動を変えるものだという点に注目して、その理由や適切な対処方法などを掘り下げていくことにします。

<学修目標>

1) 管理会計の一般的な知識を習得し、管理会計が企業で働く人々に与える影響を理解したうえで、所属する企業の現状に当てはめて分析できるようになること。
2) 管理会計システムの設計・運用のあるべき姿を情報システム・影響システムの両面から考察し、一定の解を得ること。
3) 人は測定されると行動を変えることに留意し、所属する企業において、管理会計システムの設計・運用を改善できるようになること。

※「管理会計（小林）」と「管理会計（柴崎）」については、事務局で所属クラスを振り分けます。ご自身で選択することはできません。

管理会計（柴崎）

科目区分	レベル	単位数
金融・財務	コア	1



柴崎 健
教授

＜授業概要＞

この授業では、管理会計が企業の内部に提供する情報と、企業で働く人々に与える影響に着眼して、管理会計システムの設計や、その運用のあるべき姿を考えていきます。
管理会計の元々の目的は、会計データを初めとして、企業の経営に役立つデータを、企業の内部に提供することです。つまり「情報システム」としての役割です。企業の現場に存在するのは会計データだけでは勿論ありません。仕事の質を高めるための仕組みや、働く人たちの心理・感情というものも、企業の経営に影響を及ぼすものです。
この授業では、会計データを中心とした情報システムとしての役割と、それらが企業で働く人々に与える影響、すなわち「影響システム」としての役割に着眼して進めていきます。影響システムとしては特に、人は測定されることによって行動を変えるものだという点に注目して、その理由や適切な対処方法などを掘り下げていくことにします。
なお、本講座は、対面授業はありません。

<学修目標>

1) 管理会計の一般的な知識を習得し、管理会計が企業で働く人々に与える影響を理解したうえで、所属する企業の現状に当てはめて分析できるようになること。
2) 管理会計システムの設計・運用のあるべき姿を情報システム・影響システムの両面から考察し、一定の解を得ること。
3) 人は測定されると行動を変えることに留意し、所属する企業において、管理会計システムの設計・運用を改善できるようになること。

※「管理会計（柴崎）」と「管理会計（小林）」については、事務局で所属クラスを振り分けます。ご自身で選択することはできません。

※2026年秋学期シラバスに基づいて作成しているため、記載内容に変更が生じる可能性があります。

MBA基礎科目

オペレーションズ・マネジメント（小林）

科目区分	レベル	単位数
経済数理・問題解決	コア	2



小林 英幸
教授

＜授業概要＞

オペレーションズ・マネジメント（OPM）は、定常業務（オペレーション）を機能別、部門別ではなく、それらを超えたつながりや連携の観点でマネジメントする手法であり、理論の体系です。歴史的には生産現場のオペレーションの管理に始まり、サプライチェーン・マネジメントやカスタマーリレーションシップ・マネジメントなどの領域で発展し、近年ではナレッジ・マネジメントの領域でも研究が進んできました。OPMには、経営学的なアプローチと経営工学的なアプローチがあります。前者では、OPMを組織全体の戦略的目標と統合される重要な機能と見なし、仕組みや成功事例を体系化して論じます。その中で、組織の価値創造にどのように貢献するかが重要な議論になります。後者では、科学的な手法と技術を用いて組織の効率性と生産性を向上させることを志向します。そのために、個々の課題を検証して解決することを目指すというアプローチを採ります。「オペレーションズ・マネジメント（小林）」は、主として経営工学的なアプローチで授業を進めます。企業活動とは、顧客にと って望ましい製品・サービスを創造し、それを顧客にとって望ましい価格で提供することによって利益を得る活動であると考えます。本授業では、上記を実現するための主要な業務及びその連鎖に注目し、それらのマネジメントの理論的背景やそれらが優良企業ではどのように行われているか、そこに至るまでにどのような変遷を経たかも交えて概観します。

<学修目標>

企業の経営を担う人材として備えておくべき、企業活動の様々な業務についての知識と、それぞれの業務及び業務連鎖を効果的にマネジメントするための手法を習得すること。またその結果として、実際の企業活動におけるオペレーション上の問題に直面したとき、解決策を検討し最適解を導き出す力を身に付けること。

※「オペレーションズ・マネジメント（小林）」と「オペレーションズ・マネジメント（野間口）」は同一科目のため、いずれか一方しか受講できません。

オペレーションズ・マネジメント（野間口）

科目区分	レベル	単位数
経済数理・問題解決	コア	2



野間口 隆郎
客員教授

＜授業概要＞

オペレーションズ・マネジメント（OPM）は、定常業務（オペレーション）を機能別、部門別ではなく、それらを超えたつながりや連携の観点でマネジメントする手法であり、理論の体系です。歴史的には生産現場のオペレーションの管理に始まり、サプライチェーン・マネジメントやカスタマーリレーションシップ・マネジメントなどの領域で発展し、近年ではナレッジ・マネジメントの領域でも研究が進んできました。
OPMには、経営学的なアプローチと経営工学的なアプローチがあります。前者では、OPMを組織全体の戦略的目標と統合される重要な機能と見なし、仕組みや成功事例を体系化して論じます。その中で、組織の価値創造にどのように貢献するかが重要な議論になります。後者では、科学的な手法と技術を用いて組織の効率性と生産性を向上させることを志向します。そのために、個々の課題を検証して解決することを目指すというアプローチを採ります。
「オペレーションズ・マネジメント（野間口）」は、主として経営学的なアプローチで授業を進めます。とりわけ、IT の戦略的な活用により革新的なビジネスモデルを構築するような業務改革（オペレーション改革）について理解します。一方で、オペレーションは生モノである人や組織がおこなうため、その側面からの視点も欠かせません。そのような改革を立案したうえで、実行し、その成果を評価し、次のアクションにつなげることがOPMであると捉え、実際の業務課題に直面したときに適切な解決策を導き出すために、幅広い領域の業務改革についてみていきます。講義中は「オペレーションズ・マネジメント」の日本語訳である「オペレーションマネジメント」として表記していますが、両者は同じ意味になります。

<学修目標>

将来の COO（Chief Operation Officer ;執行統括役員）、CSO（Chief Strategic Officer; 戦略統括役員）、CIO（Chief Information Officer; 情報戦略統括役員）、CMO（Chief Marketing Officer; マーケティング統括役員）の候補生として備えておくべき、企業活動の様々な業務についての知識と、事象に応じた対応のポイントや留意点を体得すること。またその結果として、実際の企業活動における戦略的なオペレーション上の問題に直面したとき、解決策を検討し最適解を導き出す力を身に付けることができる。

※「オペレーションズ・マネジメント（野間口）」と「オペレーションズ・マネジメント（小林）」は同一科目のため、いずれか一方しか受講できません。

※2026秋学期シラバスに基づいて作成しているため、記載内容に変更が生じる可能性があります。

MBA基礎科目

問題解決技法

科目区分	レベル	単位数
経済数理・問題解決	コア	2



太齋 利幸
教授

＜授業概要＞

問題解決技法は、会社経営だけでなく人生の様々な場面で必ず必要となる技術であることを理解した上で、最初に「問題とは何か」に対する正しい理解力を築き、その上で何故その問題が起こったのか原因分析を行う。また、優先順位付けの思考にも言及する。それら講義の後に、事例研究にて習熟度を高める配慮をする。特に、テクニックだけでなく、考える力の養成にも重点を置く。

<学修目標>

基本は問題解決のプロセスを正しく理解することである。方法論として垂直思考、水平思考、また手法としてのブレーンストーミング、ロジックツリー、特性要因図、系統図法、パレート図、PEST分析、SWOT分析、ファイブフォース等を学ぶことで、分析技法を習熟する。次に、課題の設定について触れ、解決のための対応策として、何を・いつまでに・どのようにという3つをポイントとして、最終的に5W3Hを使ったアクションプランを作れるようにする。そして、それを実践することにより問題解決ができるようになる。

※2026年秋学期シラバスに基づいて作成しているため、記載内容に変更が生じる可能性があります。

次世代テクノロジー科目

統計学

科目区分	レベル	単位数
経営数理・問題解決	コア	1



沖吉 真実
講師

＜授業概要＞

現在、私たちは多くの情報に囲まれて生活しています。情報化社会において、あふれる情報の中から、価値あるデータを見つけ出し、そのデータを活用するスキルはますます重要となってきます。データを活用する能力を身に着けることは、ビジネスやキャリアの成功につながります。
近年はＡＩの発達により比較的簡単にデータ分析を行うことが可能となってきましたが、必要最低限の正しいデータの取扱いや分析方法を知らなければ、正しい判断を行うことはできません。統計学は情報を読み解く力を養う第一歩であり、データに基づき問題解決や意思決定、未来の予測に役立つ重要な科目となります。本講義では、理系文系を問わず、様々な職種・業種で求められる「情報リテラシー」を身につけ、「情報を正確に解釈し、有効に活用する力」を養うことを目指します。

<学修目標>

統計学の基礎を学び、実務で活かせるデータ分析力を養うこと。またデータを活用し、問題解決や客観的な意思決定を行う力を磨くことでキャリアアップにつなげることを目標としています。

生成AIビジネス利活用概論

科目区分	レベル	単位数
経営数理・問題解決	コア	1



重田 孝夫
教授

＜授業概要＞

今日、生成AIのビジネスシーンでの利活用は、顧客・市場・社会への価値創造活動として必須要件になっています。一方で、今後の事業経営の成否を決定しかねない重要な鍵であるにもかかわらず、日々進化を遂げる生成AIにどのように向き合い、認識し、どうように利活用を図って事業活動を推進して行くべきかについては、まだまだ手探り状況にあるのも事実です。本講義は、進化し続ける生成AIのビジネスシーンでの利活用にフォーカスし、生成AIがもたらす変化や動向を踏まえながら、ビジネス利活用における本質的意義は何か。また、ユニコーン企業、ゼブラ企業、ガゼル企業等、それぞれの企業体において、アントレプレナー・イントレプレナーとして身につけておくべき基本要件である生成AIの実務における利活用能力に関して、「役立つ、使う・使える」をキーワードに、その習得を目指します。

<学修目標>

本講義の学修目標としては、授業でのレクチャー、確認テスト、ディスカッション、レポート作成を通じて、以下の実現を目指します。

1)生成AIを取り巻くビジネス環境（社会、経済、文化）とその動向について、正しく理解する。
2)生成AIによるビジネス利活用に関し、データサイエンスの観点から、そのあり方や取り組み方法について、
　知見を得、修得する。
3)生成AIを事業活動で利活用する際の本質的な意義を踏まえながら、自分自身で実務に「役立つ、使う・使える」
　ことができるようになる。

※2026秋学期シラバスに基づいて作成しているため、記載内容に変更が生じる可能性があります。

次世代テクノロジー科目

データサイエンス

科目区分	レベル	単位数
経営数理・問題解決	応用	1



沖吉 真実
講師

＜授業概要＞

本講義では、Pythonを利用したデータ解析手法を学び、あらゆるビジネスシーンでデータを活用する力を養います。本講義ではChat GPTを利用して、プログラミングへ応用することで、プログラミングを苦手とする方でもより簡単にデータを扱うことができることを目的としています。データ解析の一連の流れ（手順）を理解し、実際にPythonを実装させ、Try and Error を繰り返すことで、実践的なスキルの向上を目指します。

<学修目標>

基本的なデータ解析手法を学び、必要に応じて自身で知識を補強し、発展させる力を身に着けること。また解決したい問題に対してどの分析手法が有効なのかを理解し、自身のビジネス現場でPythonを用いてデータ解析を行い、出力に対して適切な解釈ができ、実務への応用ができることを目標としています。

ブロックチェーン技術の社会実装（基礎技術編）

科目区分	レベル	単位数
経営数理・問題解決	応用	1



藤本 守
客員教授

＜授業概要＞

ブロックチェーンは金融サービス領域のみならず、産業分野においても大きな変化をもたらす可能性を持った技術です。ただ、暗号資産やNFTにより注目を集めた技術であることから、それに伴うイメージはポジティブなものネガティブなもの様々で、ブロックチェーンの特徴が正しく理解されていないもしくは一面的な理解に基づく誤った論調も見受けられます。ブロックチェーンには複数の種類があり、ユースケース毎にどのチェーンを利用するのが良いか、技術的な特徴を踏まえて選択することが必要です。本科目では、ブロックチェーンの社会実装にあたり理解しておくべきブロックチェーンの技術的な特徴および、ブロックチェーンを利用する際に留意すべき基本的な事項を解説します。

<学修目標>

本講義を通じて、ブロックチェーンはどのような技術要素から成り立っているのか、それら技術要素の組み合わせによりブロックチェーンにはどのような種類が存在するのか、技術の選択によるトレードオフ（ブロックチェーン実装の特徴）とは何か、を理解することを通じ、ブロックチェーンの特徴を活かした社会実装を考える基本的な知識を身に着けることを目指します。更に、自らが関与する業務もしくは事業への適用可能領域を見つけ実現に向けた提案が出来るようになることを目指します。

ブロックチェーン技術の社会実装（応用編）

科目区分	レベル	単位数
経営数理・問題解決	応用	1



藤本 守
客員教授

＜授業概要＞

ブロックチェーン技術は金融サービス領域のみならず、産業分野においても大きな変化をもたらす可能性を持った技術です。これまでは暗号資産への応用が最も進展し社会的にも認知されていますが、それ以外の様々な分野への応用が進んでいます。ブロックチェーンブームに乗って多くのプロジェクトが生まれた一方で、社会実装の手前で足踏みをしている事例、社会実装まで進んだものの継続出来なかった事例も多く見られます。それは暗号資産の分野においても同様です。
ブロックチェーン技術の社会実装は発展途上であり、これが正解というセオリーがあるわけではありません。本講義ではブロックチェーン技術の社会実装はどのように進められているのか、応用分野ごとに事例を用いながら解説します。
なお、本講義ではブロックチェーン技術に関する専門用語等が多く出て来ますので「ブロックチェーン技術の社会実装（基礎技術編）」を受講されていることが望ましいです。

<学修目標>

本講義では、ブロックチェーン技術の社会実装を進めるにあたって、ユースケースがブロックチェーン技術に適しているか、新たな技術を用いるメリットとリスクは何か、その他考慮が必要となる事項は何かを事例を通じて理解することで、ブロックチェーン技術をビジネス応用する場合に多面的な考え方できるようになることを目指します。
更に、ブロックチェーン技術を利用した新たなビジネスの企画もしくは現行業務への適用等に関与する場合に、その進め方について提案が出来るようになる事を目指します。

※2026年秋学期シラバスに基づいて作成しているため、記載内容に変更が生じる可能性があります。

次世代テクノロジー科目

金融インフラと情報技術〜次世代・デジタル金融の展望

科目区分	レベル	単位数
金融・財務	応用	1



中山 靖司
客員教授

＜授業概要＞

WEB3等へ対応した全く新しいサービスが次々と生まれる昨今、伝統的な金融機関も変化することが求められており、金融のデジタル化、次世代金融サービスへの対応は否応なしに進んでいます。「金融インフラと情報技術」は、金融と情報技術の関りに焦点を当てつつ、金融機関、中央銀行、金融ネットワーク、決済インフラ等を概観するとともに、金融のDX化や次世代金融サービスについても扱う基礎科目です。金融インフラの現状及びそれを支える情報技術についての理解を深め、これからの金融サービスのあるべき姿を論じるうえで必要な知識を身につけます。本科目を学修したうえで、一般的な金融関係諸科目を履修すると、金融DX人材候補となりうるほか、金融機関の経営判断にも役立ちます。

<学修目標>

金融は情報技術なしでは成り立たない先端的な情報処理産業であること、および金融を取り巻く環境が劇的に変化しており、金融機関が生存をかけて変革を迫られていることを理解したうえで、それらの具体例を自らの言葉で表現できるようになること。

※2026秋学期シラバスに基づいて作成しているため、記載内容に変更が生じる可能性があります。

ご参考：MBA本科コース編入募集要項（2027年秋学期）

Pre-MBAコースからMBA本科コースへ編入すると

・Pre-MBAコースが終了する翌学期の2次募集合格者まで入学金10万円が免除されます。
・Pre-MBAコースで取得した単位を移行できるため、修了までに必要な取得単位数を減らすことができます。
・Pre-MBAコースで4単位取得した場合、2単位相当分の授業料（16万円）を2年次の学費から差し引きます。

単位認定 Pre-MBAコースでの取得単位 ＋ **本科** MBA本科コースでの取得単位

Pre-MBAコースでの取得単位と合わせて34単位で修了

■MBA本科コース募集定員

各学期入学：60名

■入学資格

4年制大学卒業もしくは同等の学力があり、かつ社会人として就業経験が3年以上もしくは同等の経験があると入学審査にて認められた者

■出願期間（予定）

募集	入学資格審査票 提出期日	願書受付締切	論文・面接審査期間	合否発表
1次募集	2027年4月29日(木)	2027年5月17日(月)	2027年6月1日（火)～6月9日(水)	2027年6月25日(金)
2次募集	2027年7月5日(月)	2027年7月20日(火)	2027年8月2日(月)～8月6日(金)	2027年8月20日(金)

■選考方法

論文審査：小論文（2問）の審査
面接審査：口頭試問及び必要な方への語学力チェック（日本語）
※面接は原則オンラインでの実施を予定しております。面接日程は、出願書類と入学検定料を受領後、調整させていただきます。

■合否発表

各募集の合否発表日に、メールで合否を発表いたします。

MBA本科コースへの編入をご検討の場合は、MBA本科コースの出願書類をダウンロードください。

»『SBI大学院大学WEBサイト』→『願書請求』
https://www.sbi-u.ac.jp/request_application

システム要件

■ハードウェア要件

・CPU：4コア2.5Ghz以上
・メモリ：16GB以上を推奨
・ハードディスク：

【WindowsPCの場合】

・Teamsアプリのインストール時：3GB の使用可能なディスク領域が必要です。
・Microsoft365のインストール時：44GB の使用可能なディスク領域が必要です。

【Mac PCの場合】

・Teamsアプリのインストール時：1.5 GB の使用可能なディスク領域が必要です。
・Microsoft365のインストール時：10 GB の使用可能なディスク領域が必要です。

■ソフトウェア要件

【WindowsPCの場合】

・OS：Windows11［ 64ビット版 ］
・Webブラウザ：Microsoft Edge、Google Chrome
・その他：Adobe Acrobat Reader（最新版）

【MAC PCの場合】

・OS：macOS v26.4 Tahoe、macOS v15.7 Sequoia、macOS v14.3.1 Sonoma、macOS v13.5.1 Ventura
・Webブラウザ：Safari、Google Chrome
・その他：Adobe Acrobat Reader（最新版）

※Chrome OS（Chromebook）には対応しておりません。

■モバイル端末でのご受講

・OS：iOS 26、18、iPadOS 26.2、18、Android 16、15、14、13
・Webブラウザ：
　iOSをご利用の場合：Safari
　Androidをご利用の場合：Google Chrome（標準搭載）

　※iPad mini及びiPadProは動作保証対象外です。

※スマートフォンの場合はLTE/4G以上、WiFi環境を推奨

■ネットワーク要件

・下り:2Mbps以上のインターネット接続
・上り:256kbps以上のインターネット接続
※スマートフォンの場合はLTE/4G以上、WiFi環境を推奨

【Web会議システムで授業に参加される場合】

・下り:1.8Mbps以上のインターネット接続
・上り:2.6Mbps以上のインターネット接続

■USBカメラ、ヘッドセット要件

【Web会議システムで授業に参加される場合】

・USB2.0WebカメラまたはPC内蔵のWebカメラ
・ヘッドセットまたはヘッドフォン・イヤフォン及びマイク
※ 上記パソコンのハードウェア、ソフトウェア要件に適合するもの

■その他

・大学院アカウントへのログイン時には二要素認証が必要です。ご自身のスマートフォン等に「Microsoft Authenticator」アプリをインストールし、アカウント登録を行っていただく必要があります。
・大学事務局との連絡の為、メールを送受信できる環境が必要です。
・レポート課題等への対応のためMicrosoft Excel、Microsoft Word、Microsoft PowerPointが必要です。
（在学中に限り、大学から提供されたライセンスでご利用いただけます。）

2026年9月現在（変更となる場合もございます。）

■注意事項

・ブラウザのJavaScript、Cookie、SSL(TLS)の設定が有効である必要があります。
・セキュリティソフトウェアまたは、アンチウイルスソフトウェアのセキュリティ機能によって当サービスの機能が正しく利用出来ない場合があります。
・海外でご利用の場合は、国毎のネットワーク通信やインフラ事情により受講ができない場合がございます。事前にご確認のうえご利用ください。
・本サービスは、Web通信が可能な環境でご利用になれますが、社内LANのファイヤーウォールやプロキシーサーバーなどにより通信制限されている場合は、本学コンテンツを正常にご受講いただけない場合がございます。この場合は、本サービスで利用しているプラットフォーム（学習管理システムサーバーおよび映像配信サーバー）についてホワイトリストに追加するなど、ネットワーク管理者様とご調整いただく必要があります。

試聴試験用の動画をSBI大学院大学Webサイトにて公開しております。
» 試聴試験用の動画

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ

SBI大学院大学事務局　平日9:00〜18:00

〒106-6021
東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー21階
電話 : 03-6229-1175　　FAX : 03-6685-6100
Email ：sbiu-contact@sbi-u.ac.jp

» SBI大学院大学WEBサイト
https://www.sbi-u.ac.jp/

SBI Graduate School

Ver. 2